令和２年度　学校評価　パワーアッププラン

学校名	丹波市立　中央小学校

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
教育目標『人とのつながりを活かし、自ら可能性を広げる児童の育成』 ～　自律　×　創造　×　つながり力　～ ・自律する子：自分で考え、判断・自己決定し、行動できる子 ・創造する子：自分なりの考えをもとに、新しい考えを創り出す子 ・つながれる子：互いの考えを聴き合い、学び合いができる子	職員も児童も地域・保護者も学びが楽しいと実感する学校づくり **○仕事を楽しむ職員室** ・「協働」「創造」「喜び」を大切にした職員組織・効果的な時間の使い方の考察 **○学習を楽しむ教室** ・「学校が楽しい」「授業がおもしろい」と言える児童の増加　・自分の良さが認められる教室の実現 **○子育て・教育を楽しむ家庭と地域** ・学校に興味を持ち、参画する地域住民の増加　・地域行事との積極的な連携

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。	A	今年度、情報発信の手段をホームページやメールに大きく変更したことにより、前期の学校評価アンケートにおいても、戸惑いや不安な声が聞かれた。しかし、だんだんと理解も進み、紙媒体と SNS の両方の利点を生かしながら伝えたいことが確実に伝わるよう、情報発信していけたと考える。 今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、参観日や学校へ行こう Day が充分に行えなかったが、来年度は状況を考慮しながら進めていく。
	生徒指導	・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。 ・感染について正しく理解し、感染予防に努める子どもを育てる。	B	アンケート結果から、子どもたちにとって、挨拶は学校でするものであるという意識があるように感じられる。家庭・地域などの学校外でも積極的に挨拶を行えるように、児童に啓発を行っていく。 機会を見ながら、感染に関する知識についての指導や啓発を行ってきた。また、人権的な視点での感染予防についての指導も行ってきた。児童は感染予防を意識して生活できている場面も見られるが、休み時間などには教職員からの声掛けを続けながら、必要に応じて啓発を行っていく。
教育課程	学習指導	・「聴き合い、対話し、学び合う学び」　を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。 ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。	B	意欲的に学習に取り組んでいる児童は多く、子ども同士で意見をつないだり、課題解決を行ったりしている楽しさを感じていると思われる。しかし、今年度は休校期間が長く、学習の年間カリキュラムをこなすことに追われてきたことで、学習のペースについていけない児童がいたり、職員も学び合うことよりも学習を進めることを意識したりしていた。 ２学期以降は、児童の学び合いを大事にした授業づくりの研修を行ってきた。今後も、友だちとつながって課題に向き合おうとする経験を積み重ねることで、友だちの良さに気づいたり自分に自信が持てたりする子の育成に努めていく。 また、一人一台のタブレット PC を活用しながら、子どもたちが意欲的に学び、「分かった」、「できた」と思える授業の工夫改善をしていく。
課題教育	人権教育	・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。 ・児童への心のケアを通して、感染症の影響によるいじめ・差別・偏見等の啓発に努める。	B	子どもたちの人権意識や相手を思いやる気持ちは高まってきている。教職員がアサーティブな表現で、相手を大切にする言葉の指導を行ってきたことによる成果と思われる。コロナ禍の中、児童にとって心のケアが必要であり、児童の心の動きについてのアンケートをしたり、差別や必要以上の不安につながらないようコロナウイルス対策用のインターネットサイトや DVD を視聴しながら指導を行ったりした。また、２学期には人権参観日にあわせて家庭対話を行い、保護者にとって子どもたちの人権感覚を確認するよい機会となった。今後も引き続き細やかな観察を行うとともに、人権感覚を磨く指導を行っていく。

※領域（３領域）　　学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備　　等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善　　等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育　等

※達成状況　　Ａ：優れている　　Ｂ：おおむね良好　　Ｃ：やや改善　　Ｄ：要改善

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
・家庭も地域も学校の様子を知りたいという気持ちがある。今後も積極的に情報発信してほしい。良かった点は、遠慮せずに PR すればよい。
・感染予防対策を図りながら、教育活動を実施することは大変だったと想像する。今後も引き続き、尽力してほしい。 ・休校期間が長かったことやコロナの影響で、ふさぎ込みがちな子どもが増えていると聞く。幸いにそのような子がいなかったとしても、心の状態の把握は常に意識してほしい。
・先生がわかりやすく、楽しく学ぶ工夫をされた結果が、児童アンケートにも表れている。 ・子ども達がタブレットを使って学習するようになり、先生の研修も含めて大変になるが、尽力してほしい。 ・多くの先生が子ども達に関われる体制として、新しい取り組みをしている。良かった点は、もっとアピールすればよい。 ・読書は学習の意欲向上にもつながる。読書機会の充実を図ってもらいたい。
・一人１台のタブレットを持ち帰るようになると、セキュリティの面だけでなく、情報モラルが適切に守れるか心配である。学校での指導を強化してほしい。 ・情報モラルだけでなく、人権教育は家庭で見守ってもらうことがより大切である。家庭との連携をこれからも図ってもらいたい。

自己評価の実施方法についての評価

・細かにアンケートを分析し、評価されていて素晴らしい。
・記述欄を設けることで、家庭の声が分かりやすくなった。

学校関係者評価のまとめ

・コロナ禍でありながら、普段と変わりない教育活動を工夫しながら実施していただいた努力は大きい。
・自己肯定感の高い子どもに育ってほしい。取り組みからその可能性を感じる。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

・授業改善によって、自らで考え、判断して課題解決できる、自律した学び手を育てる。
・自己の感情をうまくコントロールし、他者と気持ちよく協働できる人づくりに努める。

令和３年３月５日　　学校名　　丹波市立中央小学校

校長名　　西　田　隆　之　　印

兵庫県丹波市立中央小学校長印